

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	令和3年度 港北水と緑の学校事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク	
	行政	横浜市港北区	
事業の目的	港北区において、環境活動や防災活動が継続的に地域に根づくことを目指し、学校と連携し、流域の自然環境と防災などについて学習する体験型講座を実施する。また、広く一般区民向けの環境防災学習講座を実施する。		
事業の内容	(1) 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営（18回） (2) 一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施（1式） (3) 展示会の運営（1式） (4) 報告書作成（1式）		
役割及び責任 分担等	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	①小学校を対象とした環境防災学習講座の運営(18回)	1 講座の企画及び運営 2 参加校との事前打ち合わせ 3 教材・資料等の作成 4 アンケートの実施回収	1 参加校の募集・申込受付 2 教材・資料等の印刷 3 広報・PR
	②一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施(1式)	1 講座の企画及び運営 2 協力者との事前打ち合わせ 3 ちらしの版下作成・印刷 4 参加者募集事務 5 教材・資料等の作成・印刷	1 広報・PR
	③展示会の運営(1式)	1 展示会の企画及び運営 2 会場提供者との連絡調整	1 広報・PR
	④報告書作成(1式)	1 ①～③に関する報告書の作成	
⑤その他	1 第2条の事業目的を実現するために効果的と思われる取組の委託者への提案	1 上記①～④の他、第2条の事業目的に寄与する、受託者の自主的活動への後援や広報協力 (後援については、委託者が定める要綱に基づく申請を要する)	
実施期間	契約締結日から令和4年3月31日まで		

記入日	令和4年4月21日
・団体等名：	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク
・記入責任者 氏名：	阿部 裕治
連絡先：	045-546-4337
・部署名：	港北区区政推進課
・記入責任者 氏名：	茅野 圭衣子
連絡先：	045-540-2230

# 1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

## ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

### ②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

### ③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

### 3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

#### 事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 小学校講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により、まん延防止等重点措置が解除された10月以降に実施を開始し、人数制限等対策をとるなど、安全な事業の計画づくりができた。講座実施までの間、日程の再調整を数回重ねることになったが情報を共有しあい、問題なくすすめることができた。
- 一般向け講座も、新型コロナウイルス感染症の影響により、両者で実施方法の検討を行い、環境防災学習動画の制作に変更した。
- 展示会は、会場開催の方向で事前準備をしていたが、まん延防止等重点措置が適用されたため、WEB展示会(オリジナルHPを作成)へ開催方法を変更した。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- コロナ禍においては、年度途中で急な内容変更を余儀なくされる場面が出てくると予想されるため、スケジュールに余裕を持たせるとともに、柔軟に対応する必要がある。

#### 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 小学校向け講座の実施にあたっては、両者で安全に運営する方法を検討・確認し、3密対策やマスク着用、健康チェック、手指除菌用アルコールの準備などの対策を行い、実施状況を踏まえて適宜改善を図った。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- 新型コロナウイルス感染症の影響がある中、事業目的の達成のため、どのように事業を継続していくのか柔軟で多様な思考が必要である。

#### 事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- 年間を通して進捗状況等の情報を共有し、必要に応じて対応の改善を図りながら、安全で効果的な講座を運営したことで、講座参加者の環境意識の醸成を図ることができた。野外講座に参加した児童からは、実際に川で生きものを見た体験により、「生きものがたくさん暮らすよい川だと思った」という理解の変容がうかがえる感想を多くみることができた。この気持ちが川への興味関心、地域への愛着につながっていくものと考えているため、期待した成果を得ることができた。
- 一般向け講座は、動画制作に変更したことで、コロナ禍においても多くの方に身近な森の魅力や防災力について発信することが可能となった。地域を知る良い動画なので、子ども組織でこの動画を見て、学習を予定している。動画に出てきた港北消防署綱島出張所ではイベント時に啓発資料として、活用したいと早くも活用の計画がある。
- 展示会は、WEB開催に変更したことで、普段展示会に来ることができない子どもたちや保護者の方にも事業の成果を披露することができた。海外からのアクセスもあり、改めてインターネット開催の大き

なメリットを確認することができた。

- 鶴見川や支流の早淵川、矢上川で行った生きもの観察等の活動や、出前講座の水害、治水対策、水質改善等の解説を通して、鶴見川流域水マスタープランの洪水時水マネジメント、平常時水マネジメント、自然環境マネジメント、水辺ふれあいマネジメントの理解に寄与することができた。

#### 自由記入欄

- 協働の体制をとることで、相互の立場を理解し互いに補い合うことができた。
- コロナ禍において、安全に講座が運営できるよう川での採集活動は、昨年度に引き続き中止し、代替活動として、魚とり見学を行った。学校へのアンケートからは、川での採集活動の再開を望む意見が多かった。安全な運営を第一として、再開に向けた検討も進めていきたい。